

学位研究 第10号 平成11年6月 (論文)

[学位授与機構研究紀要]

リージェント大学における評価のシステム
ー学習とクレジットの評価を中心にー

System of Assessment of Learning Outcomes in Regents College:
Evaluation of Learning and Credit

森 利枝

Rie MORI

Research in Academic Degrees, No.10 (June, 1999) [the article]

The Journal of National Institution for Academic Degrees

リージェント大学における評価のシステム —学習とクレジットの評価を中心に—

森 利枝*

1. はじめに

本稿では、ニューヨーク州オルバニーに拠点を構える学外学位授与機関であるリージェント大学(Regents College)の制度と現状を扱う。リージェント大学は、ニュージャージー州のトーマスエジソン州立大学、コネチカット州のチャーターオーク州立大学とともにアメリカに3校ある典型的な非伝統的高等教育機関のひとつである。ここで典型的というのは、リージェント大学が、伝統的の大学が通常持つようなキャンパスを持たず、したがって学生にアカデミック・レジデンシーすなわち決められた時間に決められた教室に出席する義務を課さずにクレジットを与え、基本的に授業を行わずに学位を授与していることによる。日本の学位授与機構がイギリスのCNAを模して創立された後、ロンドン大学および先述のアメリカの2大学の研究と並行してリージェント大学を研究対象としてその制度と展開に注目してきたのは、主として後者、すなわち授業を行うことなく学力の評価によって学位を授与するという特徴に、学位授与機構の業務と同質のものを見いだして、その経験から学ぶためでもある。したがって本紀要にも、同大学に関する知見は様々な形で採り上げてきた。本稿は、リージェント大学における学士、準学士レベルのクレジットの認定と、修士、学士、準学士レベルの学位授与のシステムに着目し、これらのおのおののための評価の方法について紹介する。そして最終的には我が国の学位授与機構のシステム改善に向けて、その端緒となりうるような知見を得ることを目的とする。

2. 大学の沿革

リージェント大学は当初評価機関ボード・オブ・リージェンツ(Board of Regents)として、1963年ニューヨーク州の教育省の一部として設立された。ただし、教育省の一部にありながら扱いは私立大学である。このとき設立の模範となったのがイギリスのロンドン大学であり、主として有職の、あるいは家庭における責任を負った成人の学習に資することが目的とされていた。ボード・オブ・リージェンツ設立当時の任務は学習の成果を評価してクレジットを認定することであり、したがってこのときにはまだ学位の授与は行われていなかった。学位授与のためのプログラムが始動したのは1971年のことである。リージェント大学として最初の学位は翌

*学位授与機構審査研究部 助手

1972年に授与された学芸準学士とビジネス科学学士であった。その後1998年に、リージェント大学はボード・オブ・リージェンツの一部から独立の私立大学へと変貌した。

リージェント大学で授与されているのは、ビジネス、看護、テクノロジー、自由学芸の4領域における学士と準学士の学位と、自由学芸における修士の学位である。

アメリカにおける大学の質の保証であるアクレディテーションについて、リージェント大学は大学全体として地域アクレディテーション団体である中部諸州大学学校教育協議会高等教育委員会のアクレディテーションを受けている。また個別の分野では、看護の学士と準学士のプログラムが全米看護学アクレディテーション協会(National League for Nursing Accrediting Commission)からアクレディテーションを受けており、またテクノロジーにおける電子技術と原子力技術の科学学士のプログラムは全米技術工学アクレディテーション協会技術委員会(Technology Accreditation Commission of the Accreditation Board for Engineering and Technology (TAC/ABET)からアクレディテーションを受けている。つまりリージェント大学は非伝統型の教育機会を提供する機関ではあるが、そのクレジットと学位の質は保証されているといえる。リージェント大学は近年自らを「アメリカで最も主要なバーチャル・ユニバーシティ」と称している。はじめに同大学の現状を概観するためにこのフレーズの簡単な解釈を試みると、まずバーチャルという言い方を採り上げれば、リージェント大学はキャンパスを持たない大学として、学習者の既得のクレジットを受け入れて学位授与のためのクレジットに算入し、さらに学力を評価してクレジットに換算するための試験を行っているが、これらの手続きはすべて、学生がオルバニーにある大学の建物を訪れることなく遂行される。最近是我が国でもバーチャルといえどもまず想起されるのがインターネットによる相互コミュニケーションであり、実際にもリージェント大学におけるインターネットの利用の比重は近年急激に大きくなってきたところではあるが、ここではそれに加えて郵便、電話、ファクシミリ、衛星通信など、通信技術を用いたインターフェイスを介して、大学としての実質的な教育機能が果たされていることをもってバーチャルと称していると理解される。また、もっとも主要という主張に関しては、リージェント学位取得のプログラムに登録されている学生数は約9,500人、また1971年の創立以来1999年1月までに学位を授与された者は約7万9,000人にのぼっており、少なくとも冒頭にその名前を掲げた3校においては、規模の上では最大であるといえる。また看護学の分野では伝統、非伝統を問わず、これまでにアメリカの高等教育機関においてもっとも多く看護学の学位を授与していることも事実である。

この「アメリカで最も主要なバーチャル・ユニバーシティ」というフレーズの他に、リージェント大学の刊行物やインターネット上に公開されているウェブサイト、あるいはアドミニストレーターによる講演には、「大切なのはどこでどう学んだかよりも何を学んだかである(what someone knows is more important than where and how the knowledge was acquired)」という言葉が頻繁に見受けられる。この言葉は学生募集のためのキャッチフレーズとしての意義を大いに負っていると考えられるが、同時に私立大学であるリージェント大学の、一種の建学の精神を表したものであるともいえよう。

3. 非伝統的高等教育機関としての仕組み

リージェント大学が、非伝統的高等教育機関として果たしている実質的な機能は大別して2つある。すなわちひとつは学生の学習を評価してクレジットを認定することで、もうひとつがクレジットを評価して学位を授与することである(図1参照)。もちろん大学である以上、学位を授与することがリージェント大学の最大の機能であるが、クレジット・トランスファー(単位互換)のシステムが整ったアメリカにおいては試験によって大学レベルのクレジットを認定するという機能も重要である。また実際に、学位プログラムには登録せずに、クレジット認定の機能のみを利用する学習者も多い。ここではこれらふたつの評価に着目してリージェント大学のシステムを概観する。

3-1 学習の評価(クレジット認定)

学習の評価は、さらに直接評価と間接評価に二分される。直接評価というのは、学生がリージェント大学に直接、みずからの能力を示し、大学がそれを評価してクレジットを認定するというものである。間接評価は他機関による学習の評価の結果を受け入れるというもので、このもっとも典型的な例がクレジットの互換(credit transfer)である。ここでは直接評価と間接評価に分けて紹介する。

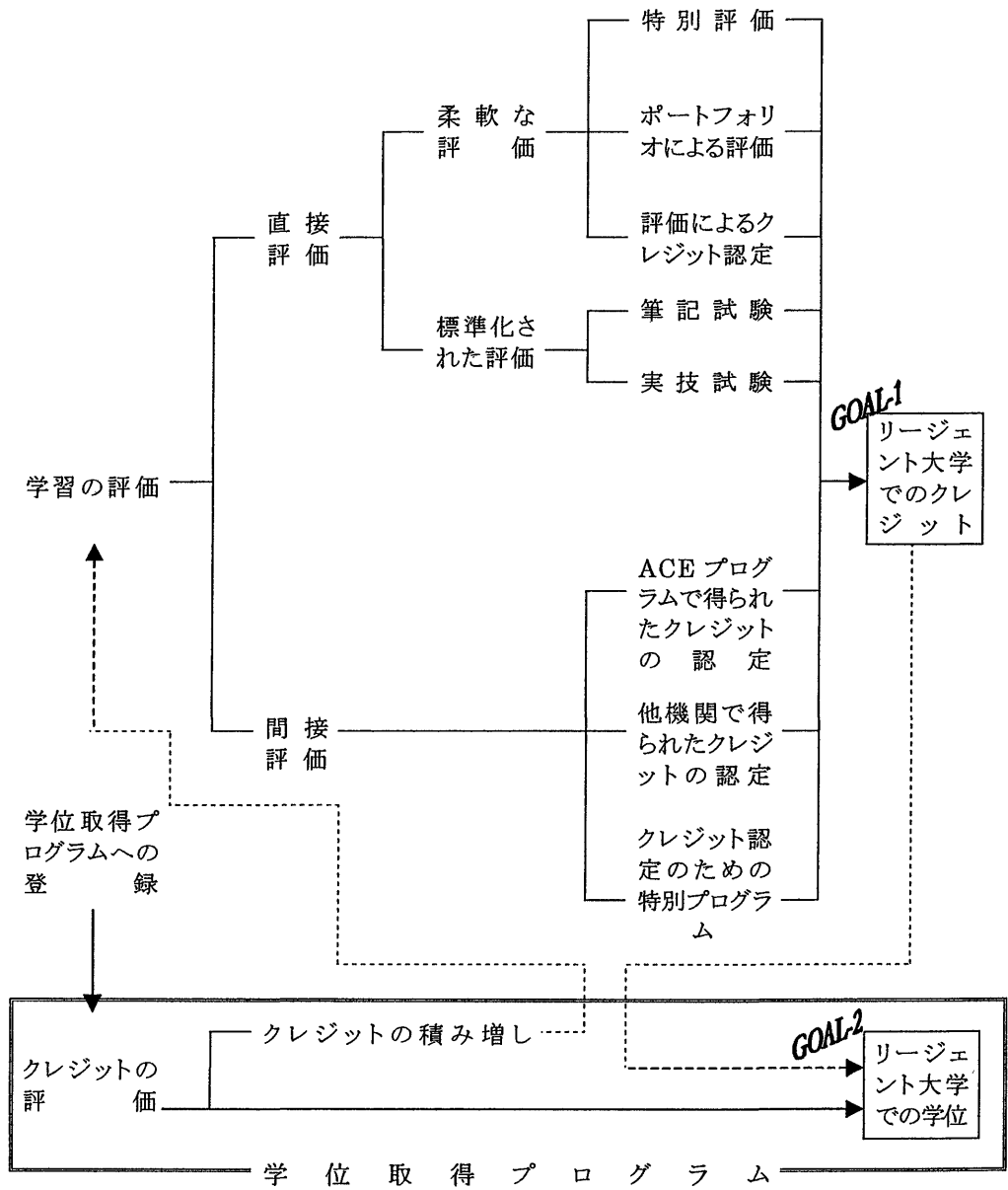
3-1-1 直接評価

直接評価は、リージェント大学での学位取得を目的とした学生のクレジット取得にも用いられるが、同時に先述した学位取得プログラムに登録せずにリージェント大学のクレジットを得ることもを目的した学習者にも主に利用される機能である。直接評価にはさらに、個人を対象とした柔軟な評価と、学生集団を対象とした標準化された評価の2種類がある。個人を対象とした柔軟な評価は下記の3タイプに類別される

- 特別評価
- ポートフォリオにもとづく評価
- 評価によるクレジット認定

特別評価では一人の学生に対して二人のファカルティ・メンバーが面接して学生の知識をわかり、その知識を評価してクレジットに換算する。ポートフォリオに基づいた評価は、学生が自らの知識を記したものをまとめてポートフォリオとして提出し、ファカルティ・メンバーがそれを審査してクレジットに換算する。評価によるクレジット認定は、エンパイア・ステイト大学との合作で行われている一種の学習契約で、学生が提出した学習到達目標を記した学習申告書に沿ってファカルティ・メンバーが試験を行い、その結果学生が得たことが証明された知識をクレジットに換算するというものである。ここで注意しなければならないのは、このポートフォリオ評価がいわゆる人生経験学習ではないということである。アメリカの大学では非伝統的な評価方法として、成人学生の職業などの人生経験を評価して、一定のクレジットに換算

図1：リージェント大学における評価



するということがしばしば行われているが、リージェント大学では、人生経験の直接のクレジット化はなされていない。

次に、直接評価のうち標準化された評価には、

- 筆記試験
- 実技試験

の2種類がある。どちらも学生の大学レベルの知識を問うものだが、すべての試験に大学の準学士レベルか学士レベルかの別が設定されている。合格した学生にはクレジットが与えられるが、その数は内容に応じてさまざまである。また、リージェント大学は、合衆国で唯一、大学であると同時に全米テスト機関(National Testing Agency)でもあり、筆記試験の問題は、アメリカ全土から集まった高等教育のファカルティによって作成されている。また同時にリージェント大学が行うテストはアメリカ教育評議会(American Council on Education, ACE)の、成人学習教育資格センター(Center for Adult Learning and Educational Credentials)が、大学レベルの質を認定している。この筆記試験にはマークシート方式の択一試験と小論文の別があり、すべての試験結果はアメリカの平均的大学生から成る参照グループの成績を基準に評価される。1998年の時点で、筆記試験は31種類が開設されている。

実技試験は4種類用意されていて、すべて看護学に関する試験である。この試験は後に述べるリージェント大学での看護学の学位授与のために必須の試験で、看護学の学士または準学士の学位を得ようとする者は全員合格しなければならない。試験は医療現場である病院で行われ、治療に関する能力を実地試験と面接で評価する。実地試験には実際の患者の協力を得て行われる健康診断の実地試験と、人体のダミーを用いた点滴などの加療の実地試験がある。また面接試験では、学習者は看護婦による医療行為を扱ったスキットをビデオで見たあとで、その内容に関する試験官の質問に答える。

以上、筆記試験と実技試験について概観したが、詳しい試験題目、レベル設定、取得できる単位数、試験方法については表1に示した。

さて、この試験は一般に「リージェント試験」と呼ばれており、TOEFLやG-MATと同様に、試験実施者以外の編集、出版による試験対策のハウツー本が販売されている。このことの背景には、この「リージェント試験」に、リージェント大学で学位を得る以外にも用途があるという事実がある。

まず、リージェント大学が間接評価として他大学で得られたクレジットのトランスファーを受け入れているのと同様に、リージェント大学で試験によって得られたクレジットは他大学での学位取得のためのクレジットとしてトランスファーできる。これはいわばアカデミックに限定した用途であるが、この他にも主として有職者、あるいは求職者のキャリアアップの方途としても使うことができる。たとえば、ニューヨーク州における教員資格を得るために必要なクレジットとして算入できる。あるいは現職の教員がリージェント大学試験を経てクレジットを得ることによって、公式な人事考課に参照されるクレジット数を積み増すこともできる。またニューヨーク市教育委員会には、現職教員がリージェント大学試験によって得たクレジットを

表1：リージェント大学試験（標準化された評価）

	試験題目	準学士レベル・学士レベルの別	クレジット数 (クレジット)	試験実施方法
筆記試験	異常心理学	学士レベル	3	択一
	構造と心理学	準学士レベル	6	択一
	老人問題研究の基礎	学士レベル	3	択一
	ライフコースの心理学	準学士レベル	3	択一
	分子生物学	準学士レベル	3	択一
	ビジネス政策と戦略	準学士レベル	3	小論文
	企業財政学	準学士レベル	3	択一
	人材管理	学士レベル	3	択一
	労働関係	学士レベル	3	択一
	組織行動学	学士レベル	3	小論文
	経営原理	準学士レベル	3	択一
	マーケティング原理	準学士レベル	3	択一
	製造・操業管理	準学士レベル	3	択一
	小学校読解指導	準学士レベル	6	択一
	看護共通分野A	準学士レベル	5	択一
	看護共通分野B	準学士レベル	5	択一
	看護特定分野A	準学士レベル	5	択一
	看護特定分野B	準学士レベル	5	択一
	看護特定分野C	準学士レベル	5	択一
	看護学基礎	準学士レベル	8	択一
	母性・幼児看護学（準学士レベル）	準学士レベル	6	択一
	母性看護学	準学士レベル	3	択一
	看護職務戦略	準学士レベル	3	択一
	成人看護学	学士レベル	8	択一
	健康回復I	学士レベル	4	択一
	健康回復II	学士レベル	4	択一
	健康支援I	学士レベル	4	択一
	健康支援II	学士レベル	4	択一
	母性・幼児看護学（学士レベル）	学士レベル	8	択一
	看護職務戦略	学士レベル	4	択一
	精神医学・心療看護	学士レベル	8	択一
	実技試験	看護医療技術実技	準学士レベル	8
健康診断実技		準学士レベル	6	実技
患者指導実技		学士レベル	2	実技
実務能力実技		学士レベル	12	実技

評価する特定のスキームを用意している。このように、ニューヨーク州あるいはニューヨーク市の教育委員会においてリージェント試験のクレジットが考課されることは、リージェント大学とニューヨーク州教育委員会との歴史的な結びつきに支えられたものであるとも考えられる。しかし、ニューヨーク州以外にも、26の州の教育委員会で、この試験によって得られたクレジットを現職教員の人事考課に反映させているということをリージェント大学では把握している。

リージェント試験が影響するのは現職教員のキャリアだけには限らない。ニューヨーク州の看護婦（士）の資格取得に必要なクレジットに算入することも可能である。またニューヨーク州の公務員試験の受験資格の要件として求められているクレジットへの算入もできる。

3-1-2 間接評価

学習の間接評価とは、基本的にリージェント大学以外が主体となって行った学修の評価（クレジット化）を、改めて評価してリージェント大学でのクレジットに読み替えるという作業である。この作業には大別して以下の3類型がある。

- アメリカ教育協議会(ACE)プログラムで得られたクレジットの認定
- 他機関で取得されたクレジットの認定
- クレジット認定のための特別プログラムに基づく認定

このうち、まずACEで得られたクレジットの認定とは、ア Kredィテーションを受けた大学以外の組織で発生する学習プロセスをACEが大学レベルの教育と認めて、学習をクレジットに換算した結果を再びリージェント大学として認定するというものである。ACEによるクレジット換算の主要なものとしては大学クレジット推奨サービス(CREDIT-IMPONSI)による、軍隊や企業での系統だった教育訓練プログラムにおける学習のクレジット換算が挙げられる。また、ニューヨーク州が運営する同様のプログラムである、非大学教育認定プログラムを通して得られたクレジットも認定されている。

次に、他機関で取得されたクレジットの認定であるが、これはアメリカ国内でア Kredィテーションを受けた機関が認定したクレジットを、リージェント大学として改めて認定するもので、いわゆるクレジットの互換(credit transfer：単位互換)がこれにあたる。

3つめのクレジット認定のための特別プログラムには以下のようなものがある。

- ・国際的クレジット評価機関で認定された世界の大学の授業の認定
- ・エルサレム・ヘブライ大学での試験
- ・連邦航空局(FAA)免許取得試験
- ・内科医師助手試験
- ・海軍原子力学校試験

これらの試験に合格した者は、大学レベルの能力を有しているとリージェント大学によって認められ、それぞれリージェント大学のクレジットが認定される。

ただし、前述2件のACEプログラムによるクレジット認定にしても他機関からのクレジットの互換にしても、すべてのクレジットを受け入れるわけではない。すでに他の組織によって認定

されたクレジットの受け入れについては、a) レベルの制限、b) 時間の制限のふたつの制限がかけられている。

まず、a) レベルの制限について、リージェント大学ではACEが認めていなければ、アクレディテーションを受けていない大学等で認定されたクレジットは受け入れない。さらに、取得の際には2.0もしくはC以上の成績で取得されていることが求められる。またb) 時間の制限については、取得以降一定期間を経たクレジットは算入が認められない場合がある。具体的には、ビジネスに関するクレジットは20年以内に取得されたものでなければリージェント大学におけるビジネスの学位要件を満たさないことがある。看護学に関するクレジットは5年以内に取得されたものでなければ、リージェント大学のクレジットとしてトランスファーを受け入れることはできない。テクノロジーの分野においてコンピュータに関するクレジットは10年以内に取得されたものでなければならぬという制限がある。つまり、技術革新や知識の拡大にともなう学習内容の変更の頻度や更新の速度に応じて、古い時代の知識をもとにしたクレジットは受け入れられなくなるシステムが完成されているのである。

このような制限が加えられているのは、ひとつには「リージェント大学のクレジット」の質を保持するためである。リージェント大学で取得されたクレジットは、別の大学にトランスファーされたときに、それぞれの大学での学位取得の要件を満たすものでなければならない。ここでまず、クレジットそのものの質を担保する必要がある。また、これらクレジットは「リージェント大学での学位」取得要件を満たすものとして使用される。つまり、a) リージェント大学のクレジットのレベルに制限を加えることはリージェント大学の学位の質を高く維持することでもある。また、b) 取得から規定以上の年数が経過したクレジットについては、たとえそれが試験などを通してリージェント大学で取得されたものであっても学位取得の要件を満たさない。すべての学生を、いわば「自前で育てる」ことをしない学外学位授与機関として、リージェント大学ではこのようにして、クレジットそのものと学位の質の担保をはかっていることが見てとれる。

3-2 クレジットの評価（学位授与）

学習の評価とは別に、リージェント大学が果たしている機能にはもうひとつ、学生が取得、累積したクレジットを評価して、学位を授与するという機能がある。次にこの機能について概観する。

3-2-1 専門分野

リージェント大学で授与されている学位はビジネス、看護学、テクノロジー、自由学芸の4つの専門分野にわたっている。また授与される学位の種類は学芸学士、科学学士、学芸準学士、科学準学士、応用科学準学士と学芸修士の6種類である。以下に、各専門分野で授与される学位の種類と、おのおのに付される専攻分野の名称を一覧に示した。たとえば専門分野がビジネスで学位の種類が応用科学準学士、専攻分野が経営管理学だとすると、授与される学位は応用

科学準学士（ビジネス（経営管理学））（Associate of Applied Science in Business, Administrative Management Studies）となり、また専門分野が看護学、学位の種類が科学学士、専攻分野が看護学であれば科学学士（看護学）（Bachelor of Science in Nursing）となる。

専門分野	学位の種類	専攻分野	
ビジネス	応用科学準学士	経営管理学	
	科学準学士	ビジネス	
	科学学士	総合ビジネス 会計学 会計学（ニューヨーク州公認会計士コース） 財政学 国際ビジネス 人材管理 情報システム管理 マーケティング 株式管理	
看護学	応用科学準学士	看護学	
	科学準学士	看護学	
	科学学士	看護学	
テクノロジー	科学準学士	電子技術 コンピュータ・ソフトウェア 原子力技術 特殊技術テクノロジー	
	科学学士	電子テクノロジー コンピュータ・テクノロジー コンピュータ情報システム 原子力技術 特殊技術テクノロジー（化学） 特殊技術テクノロジー（コンピュータ） 特殊技術テクノロジー（電子機械） 特殊技術テクノロジー（電子・器具操作） 特殊技術テクノロジー（製造） 特殊技術テクノロジー（機械・溶接） 特殊技術テクノロジー（原子力） 特殊技術テクノロジー（化学）	
		学芸準学士	
		科学準学士	
		学芸学士	
		科学学士	
		修士	

以下では、上記4分野における学士および準学士レベルの学位取得のための要件を中心に概観することにする。

3-2-2 学位取得まで

リージェント大学での学位取得は、専門分野や学位の種類の違いによらず、基本的に同じ段階を経る。すなわち、すべての学生は問い合わせから学位取得まで、下記のような段階を経ることになる。

- | | | |
|---|------|--|
| リー
ジェ
ント
大
学
の
学
生
と
し
て
の
プ
ロ
セ
ス | i | リージェント大学への問い合わせ |
| | ii | リージェント大学から案内書を受領する |
| | iii | 自分自身の学習ニーズに照らしてリージェント大学の学位取得要件を検討する |
| | iv | 登録申込書と学費を送付する（登録者のみ） |
| | v | これまで受けた高等教育の成績等を、個々の機関からリージェント大学へ直接送付するよう手配する |
| | vi | 登録時に既得の学習経験に対する評価を受領する |
| | vii | 既習科目のシラバス、カリキュラムナンバー等を提出する（必要時のみ） |
| | viii | リージェント大学のアドバイザーと学位取得プランを相談する |
| | ix | 学位取得のために必要なクレジット数を把握し、取得先の機関にクレジット取得のための登録について事前承認を得る |
| | x | クレジット取得先の機関で授業・試験・評価を受け、交付された成績証明をリージェント大学に提出することによりクレジットを申請する |
| | xi | 申請されたクレジットが学位取得要件を充足したかについて最終評価を受け、充足していれば学位取得情報を受領する |
| | xii | 学位取得 |

この流れを見ても分かるように、リージェント大学での学士・準学士の学位の取得に関しては、学習者には、学位取得プログラムへの登録に先立って一定のクレジットを有していなければならないという規定はない。実際に、アメリカの大学の非伝統的プログラムの多くは、プログラムへの登録の時点で、数クレジットから数十クレジットを有していることを要件とするところが多いのだが、その意味でリージェント大学は例外的であるといえる。また、図1に示したように、リージェント大学からの学位の取得のためにはすべての学生が一度学生として登録する必要があるが、仮に登録の時点で学位を取得できるだけのクレジットを有していれば、リージェント大学のクレジットはひとつも得ることなしにリージェント大学から学位が授与される。これも、多く当該大学でのクレジット取得が求められるアメリカの非伝統的学位プログラムにおいて例外的であるといえよう。

3-3 学位取得要件

リージェント大学での学位取得要件に関しては、必須のクレジット数は学士で約120クレジット、準学士で約60クレジットとなっているが、実際に求められている分野や領域ごとに若干異なっている。ここでは、学士、準学士授与のためのクレジット取得要件について各分野ごとに見ていくことにする。

3-3-1 ビジネス

ビジネス応用科学準学士 (学位取得要件：60クレジット以上)

人文科学領域 20クレジット以上

人文学 6クレジット以上 (うち英作文3クレジット以上)

社会科学 6クレジット以上 (うち行動科学3クレジット以上)

自然科学または数学 6クレジット以上

職業領域 20クレジット以上

選択領域 20クレジット以上

ビジネス科学準学士 (学位取得要件：60クレジット以上)

人文科学領域 33クレジット以上

人文学 (英作文3クレジット以上のほかに6クレジット)

倫理学 (内容によってはビジネス領域に分類する)

社会科学または歴史 6クレジット以上

自然科学または数学

ビジネス領域 21クレジット以上

倫理学 (内容によっては人文科学領域に分類する)

ビジネス・コア・リクワイアメント

その他の領域 6クレジット以上

ビジネス科学学士 (学位取得要件：120クレジット以上)

人文科学領域 60クレジット以上

人文学 (英作文3クレジット以上のほかに9クレジット)

倫理学 (内容によってはビジネス領域に分類する)

社会科学または歴史 9クレジット以上

自然科学または数学

ビジネス領域 45クレジット以上

倫理学 (内容によっては人文科学領域に分類する)

ビジネス・コア・リクワイアメント

ビジネス (学士レベル) 12クレジット以上

その他の領域 15クレジット以上

ビジネスの領域では、ビジネス科学準学士とビジネス科学学士の要件において倫理学の科目が必修になっているのが興味深い。この倫理の科目はシラバスの内容によって人文科学の領域に振り分けられたりビジネスの領域に振り分けられたりするのだが、学生の側としては人文科学にあたるかビジネスにあたるかが申請の時点ではっきりしなくても、倫理学のクレジットを取得していれば内容に応じてどちらかの領域が受け皿になるので、たとえば「ビジネス領域

に分類される倫理のクレジットの取得を要す」というような限定的な要件を課した場合に起こりうるような、「学習者が学位を申請した際に、内容による領域の判断を誤ったために倫理学のクレジットだけが不足していて、結果として学位が授与されない」という危険が回避される。

また、ビジネスの領域に申請できるクレジットは過去20年以内に取得されたものでなければならぬという制限が設定されている。ただし、21年以上前に取得されたクレジットも、人文科学領域の要件を満たすクレジットとしてなら申請できるとされている。

3-3-2 看護学

看護学応用科学準学士 (学位取得要件：66クレジット以上)

ジェネラル・エデュケーション領域 30クレジット以上

人文学 6クレジット以上

社会科学あるいは歴史 6クレジット以上

自然科学あるいは数学 8クレジット以上

その他の領域 7クレジット以上

英作文 3クレジット以上

看護学領域 36クレジット以上

看護学共通分野A 5クレジット以上

看護学共通分野B 5クレジット以上

看護任務戦略 3クレジット以上

看護特定領域A 5クレジット以上

看護特定領域B 5クレジット以上

看護特定領域C 5クレジット以上

看護医療実技試験 8クレジット以上

看護科学準学士 (学位取得要件：66クレジット以上)

ジェネラル・エデュケーション領域 30クレジット以上

人文学 6クレジット以上

社会科学あるいは歴史 6クレジット以上

自然科学あるいは数学 8クレジット以上

その他の領域 7クレジット以上

英作文 3クレジット以上

看護学領域 36クレジット以上

看護学共通分野A 5クレジット以上

看護学共通分野B 5クレジット以上

看護任務戦略 3クレジット以上

看護特定領域A	5クレジット以上
看護特定領域B	5クレジット以上
看護特定領域C	5クレジット以上
看護医療実技試験	8クレジット以上

看護学科学学士 (学位取得要件：120クレジット以上)

ジェネラル・エデュケーション領域 72クレジット以上

人文科学 66クレジット以上 (うち9クレジット以上は深化学習)

人文学 18クレジット以上

社会科学あるいは歴史 15クレジット以上

自然科学あるいは数学 15クレジット以上

英作文 3クレジット以上

その他の領域 6クレジット以上

看護学領域 48クレジット以上

健康回復I 4クレジット以上

健康回復II 4クレジット以上

健康支援I 4クレジット以上

健康支援II 4クレジット以上

医療実技試験 8クレジット以上 (医療ポートフォリオ評価 8クレジット
以上で代替可)

健康診断実技試験 6クレジット以上

患者指導実技試験 2クレジット以上

実務能力試験 12クレジット以上

看護学では、先ほどから述べているように実技試験が課されているのが最大の特徴である。この要件に示された試験によるクレジットの数は、先述のリージェント大学試験における実技試験で取得できるクレジット数と合致している。また、看護学の領域に申請するクレジットは過去5年以内に取得されたものとするという制限がかけられている。

3-3-3 テクノロジー

テクノロジー科学準学士 (学位取得要件：60クレジット以上)

人文科学領域 30クレジット以上

人文学または社会科学または歴史 12クレジット以上

コミュニケーション 6クレジット以上 (うち英作文3クレジット以上)

人文学 3クレジット以上

社会科学または歴史 3クレジット以上

自然科学または数学 12クレジット以上 (うち物理学, 科学, 生物学から6クレジット)

ト以上、大学レベルの代数以上の数学6クレジット以上)

テクノロジー領域 30クレジット以上

テクノロジー特定分野 18クレジット以上

その他テクノロジー分野 12クレジット以上

(コンピュータ言語かコンピュータアプリケーションの1科目を含むこと)

テクノロジー科学学士 (学位取得要件: 120クレジット以上)

人文科学領域 60クレジット以上

人文学または社会科学または歴史 24クレジット以上

コミュニケーション 6クレジット以上 (うち英作文3クレジット以上)

人文学 6クレジット以上

社会科学または歴史 6クレジット以上

自然科学または数学 21クレジット以上 (うち物理学, 科学, 生物学から9クレジット以上/大学レベルの代数以上の数学12クレジット以上)

テクノロジー領域 48クレジット以上 (うち15クレジット以上は学士レベル)

テクノロジー特定分野 24クレジット以上

その他テクノロジー分野 24クレジット以上

(コンピュータ言語がコンピュータアプリケーションの1科目を含むこと)

職業的応用テクノロジー領域 12クレジット以上

電子テクノロジー応用科学準学士 (学位取得要件 64クレジット以上)

人文科学領域 32クレジット以上

人文学または社会科学または歴史 12クレジット以上

コミュニケーション 6クレジット以上 (うち英作文3クレジット以上)

人文学 3クレジット以上

社会科学または歴史 3クレジット以上

自然科学または数学 16クレジット以上 (うち微分積分Iあるいは応用微分積分I 8クレジット以上, 物理学I・IIの1実験科目)

テクノロジー領域 32クレジット以上

テクノロジー・コア・リクワイアメント 24クレジット以上

その他テクノロジー科目

電子テクノロジー科学学士 (学位取得要件：124クレジット以上)

人文科学領域 60クレジット以上

人文学および社会科学または歴史 24クレジット以上

コミュニケーション 9クレジット以上 (うち英作文3クレジット以上)

人文学 3クレジット以上

社会科学または歴史 6クレジット以上

自然科学または数学 24クレジット以上 (うち微分積分I・IIあるいは応用微分積分I・II
12クレジット以上, 物理学I・IIの1実験科
目)

テクノロジー領域 48クレジット以上 (うち16クレジット以上は学士レベル)

テクノロジー・コア・リクワイアメント

総合的テクノロジー評価 3クレジット

その他テクノロジー科目

職業的応用テクノロジー領域 16クレジット以上

コンピュータ・テクノロジー科学学士 (学位取得要件：124クレジット以上)

人文科学領域 60クレジット以上

人文学または社会科学または歴史 24クレジット以上

コミュニケーション 9クレジット以上 (うち英作文3クレジット以上)

人文学 3クレジット以上

社会科学または歴史 6クレジット以上

自然科学または数学 24クレジット以上 (うち微分積分I・IIあるいは応用微分積分I・
II 8クレジット以上, 物理学I・IIの1実験
科目)

テクノロジー領域 48クレジット以上 (うち16クレジット以上は学士レベル)

テクノロジー・コア・リクワイアメント

その他テクノロジー科目

職業的応用テクノロジー領域 16クレジット以上

コンピュータ・ソフトウェアテクノロジー科学準学士 (学位取得要件：60クレジット以上)

人文科学領域 30クレジット以上

人文学 9クレジット以上

社会科学または歴史 6クレジット以上

自然科学または数学 9クレジット以上 (うち離散数学を含む)

その他人文科学領域の科目 (うち英作文3クレジット以上)

テクノロジー領域 30クレジット以上

テクノロジー・コア・リクワイアメント 24クレジット以上
その他コンピュータソフトウェア科目

コンピュータ情報テクノロジー科学学士 (学位取得要件：120クレジット以上)

人文科学領域 60クレジット以上

人文学 9クレジット以上

社会科学または歴史 12クレジット以上

自然科学または数学 12クレジット以上 (うち微分積分Iあるいは離散数学を含む)

その他人文科学領域の科目 (うち英作文3クレジット以上)

テクノロジー領域 45クレジット以上 (うち15クレジット以上は学士レベル)

テクノロジー・コア・リクワイアメント

その他コンピュータ情報の科目

原子力テクノロジー科学準学士 (学位取得要件：60クレジット以上)

人文科学領域 30クレジット以上

人文学 6クレジット以上

社会科学または歴史 6クレジット以上

自然科学または数学 15クレジット以上 (うち微分積分Iあるいは応用微分積分7クレジット以上を含む)

英作文 3クレジット以上

テクノロジー領域 30クレジット以上

テクノロジー・コア・リクワイアメント

その他テクノロジー領域の科目

原子力テクノロジー科学学士 (学位取得要件：124クレジット以上)

人文科学領域 60クレジット以上

人文学及び社会科学あるいは歴史

コミュニケーション 9クレジット以上 (うち英作文3クレジット以上)

人文学 3クレジット以上

社会科学または歴史 6クレジット以上

自然科学または数学 12クレジット以上 (うち物理学I・IIの1実験科目, 化学の実験科目, 原子物理学, 原子力物理学, 熱力学を含む)

テクノロジー領域 48クレジット以上 (うち16クレジット以上は学士レベル)

テクノロジー・コア・リクワイアメント

総合テクノロジー評価 3クレジット以上

テクノロジーの分野では、領域ごとに細かい要件の設定がなされている。また、コンピュータに関するクレジット申請は、過去10年以内に取得されたものに限るという制限がかけられている。

3-3-4 自由学芸

学芸準学士 (学位取得要件：60クレジット以上)

人文科学 48クレジット以上 (うち英作文3クレジット以上)

ジェネラル・エデュケーション 33クレジット

パターン1

人文学 12クレジット

社会科学あるいは歴史 12クレジット

自然科学あるいは数学 9クレジット

パターン2

人文学 12クレジット

社会科学あるいは歴史 9クレジット

自然科学あるいは数学 12クレジット

パターン3

人文学 9クレジット

社会科学あるいは歴史 12クレジット

自然科学あるいは数学 12クレジット

その他人文学の領域の科目 12クレジット以上

職業的応用科目 12クレジット以上

科学準学士 (学位取得要件：60クレジット以上)

人文科学 30クレジット以上 (うち英作文3クレジット以上)

ジェネラル・エデュケーション 24クレジット

パターン1

人文学 9クレジット

社会科学あるいは歴史 9クレジット

自然科学あるいは数学 6クレジット

パターン2

人文学 9クレジット

社会科学あるいは歴史 6クレジット

自然科学あるいは数学 9クレジット

パターン3

人文学 6クレジット

社会科学あるいは歴史 9クレジット

自然科学あるいは数学 9クレジット

その他人文学の領域の科目 3クレジット以上

職業的応用科目 30クレジット以上

学芸学士 (学位取得要件：120クレジット以上・うち30クレジット以上は学士レベル)

人文科学 90クレジット以上 (うち学士レベル30クレジット以上, 英作文3クレジット以上)

ジェネラル・エデュケーション 33クレジット

パターン1

人文学 12クレジット

社会科学あるいは歴史 12クレジット

自然科学あるいは数学 9クレジット

パターン2

人文学 12クレジット

社会科学あるいは歴史 9クレジット

自然科学あるいは数学 12クレジット

パターン3

人文学 9クレジット

社会科学あるいは歴史 12クレジット

自然科学あるいは数学 12クレジット

職業的応用科目 30クレジット以上

科学学士 (学位取得要件：120クレジット以上・うち30クレジット以上は学士レベル)

人文科学 60クレジット以上 (うち学士レベル21クレジット以上, 英作文3クレジット以上)

ジェネラル・エデュケーション 24クレジット

パターン1

人文学 9クレジット

社会科学あるいは歴史 9クレジット

自然科学あるいは数学 6クレジット

パターン2

人文学 9クレジット

社会科学あるいは歴史 6クレジット

自然科学あるいは数学 9クレジット
パターン3

人文学 6クレジット

社会科学あるいは歴史 9クレジット

自然科学あるいは数学 9クレジット

職業的応用科目 60クレジット以上（うち9クレジット以上は学士レベル）

自由学芸における単位申請には、取得時期に関する制限は設けられていない。

ここに規定されたクレジットを、学生は大学のアドバイザーと相談しながら取得してゆく。ここまでで見てきたように、各分野における学位取得のためのクレジットの要件は、分野の特徴を反映するばかりでなく、その下位の領域の違いをも体現している。また、職業と直接結びつく領域、すなわちビジネス、看護学、テクノロジーの3分野において、申請できるクレジットの取得時期に制限を設けたり、実技試験を課したりしており、自由学芸にはそのような特徴は見受けられないという違いには、プロフェッショナル学位とアカデミック学位の差異が如実に現れていると指摘できるだろう。

3-4 修士（自由学芸）プログラム

自由学芸の分野には修士の学位プログラムも開設されている。このプログラムはこれまで紹介してきた学士と準学士取得のためのプログラムとはパターンの異なる学習を要求している。ここでリージェント大学の修士学位の取得要件について紹介しておきたい。

修士の学位取得のためには33クレジットを得なければならない。しかしこれは、学士や準学士などちがって、すべてどこの大学で取得してきても良いというわけではない。取得要件は3つの部分から成っている。I部は、総合領域の学習で、インターネットを利用したものである。学生はリージェント大学が主催するインターネット上のオンライン学習グループに参加する。大学はこの学習者のために学習ガイド、学習のための文献リスト、資料論文集などを出版するとともにオーディオ、ビデオ教材を用意している。またリージェント大学ファカルティによるオンライン指導も実施される。学生はこの方法で12クレジットを取得しなければならない。オンライン学習に代えてリージェント大学が実施する試験によってこの12クレジットを得ることもできる。

II部は、クレジット履修である。このクレジット履修に先立って、学生は学修の目的を論じた小論文を提出しその内容に沿った履修を行うのである。この小論文にクレジットは与えられない。

クレジットの履修のしかたは、学位・準学士における履修のしかたと同様、既得のクレジットの利用や他大学での履修、および学力の直接評価などである。II部では15クレジットの取得が要件となっている。

III部では、学生は学習の仕上げとして、論文を書いてリージェント大学の審査を受けな

ればならない。論文には6クレジットが与えられる。

このように、リージェント大学の修士のプログラムは学士と準学士とは違ってリージェント大学からのクレジットの履修を学位取得の要件として課していることが大きな特徴である。なおこのプログラムは1998年に開始されたばかりのもので、今後の動向が注目される。

4. 学生サービス

リージェント大学と我が国の学位授与機構の大きな違いのひとつは、学習者が学生として当該機関に所属するか否かという点である。リージェント大学の学位取得プログラムに登録している学習者は、学生としていくつかの恩恵を得ている。

4-1 ウェブサイトでの情報提供サービス

近年、大学がインターネット上にウェブサイトを開設して情報提供を行うのは我が国でもめずらしいことではなくなったが、リージェント大学のウェブサイトはキャンパスを持たない非伝統的高等教育機関としての特徴を呈している。たとえば大学のサイトにブックショップの機能があり、学生は大学の出版物をインターネット上で購入できる。また、サイト上にはウェブ伝言板が設置されており、リージェント大学への登録を考えている者が、すでに登録している学生にアドバイスを求めるなど、相互に情報交換できる。少し話がそれるが、このように大学自体がバックアップし保守、管理するサイトの他に、学習者の自発的なサークルや個人の学習者がリージェント大学に関する情報を交換したり公開したりしているサイトもある。ただしこのような自発的なサイトには問題点もある。すなわち大学が発行する資料などを無断で掲載するといった著作権法に反する行為が見受けられるのである。大学のコンピュータ情報担当の部門ではこのようなサイトを見つければ管理者に連絡して公開をやめさせているが、違法行為の発見は偶然の要素に頼らざるを得ないという。

リージェント大学の公式サイトに立ち戻ると、アメリカの大学の中には、ウェブサイトからインターネットを通じて入学手続きができるようになってきているところも少なくなく見受けられる。リージェント大学には現在オンライン登録の機能はないが、登録担当に電子メールでコンタクトして質問などができる仕組みになっている。また、サイト上に申請紙の書式が公開されていて、学習者はダウンロードのうえ印刷して使用できる。さらにリージェント大学試験のための学習ガイドも、印刷メディアと同一のものがオンライン版として公開されている。

4-2 奨学金

非伝統的高等教育機関ではあるものの、リージェント大学は大学であり、登録した学生は大学生としてのステイタスを得ることになる。かれらはリージェント大学を通じて、または個人的に各種の奨学金を申請できる。ただし、彼らの多くが職業を持つパートタイム学生であるため、奨学生としての採択率は伝統的の大学に比べると低い。

4-3 同窓会

リージェント大学では同窓会が組織されている。同窓会のミーティングが開かれ、同窓会報も発行されている。また前項ではリージェント大学の奨学金制度にふれたが、奨学金の中にはリージェント大学同窓会奨学金もある。奨学金組織の運営および資金の運用に加え、奨学金を給付される学生の選考も同窓会の委員が行っている。

4-4 学生になろうとする者へのサービス

大学のサービスは登録している学生だけでなく、登録を考えている者にも向けられている。リージェント大学には登録前審査(Optional Credit Review Before Enrollment)の制度があり、学習者は学位取得プログラムに登録しなくてもクレジットの取得状況を報告することによって、個々に学位取得のためのコンサルティングを受けることができる。登録前審査には審査料を徴収する。審査料は1999年1月の時点でビジネス、看護学、自由学芸が150ドル、テクノロジーが180ドルとなっている(いずれも基本料金)。ただしこの料金は登録前審査終了後3カ月以内に登録がなされた場合、登録料から差し引かれる。このようなサービスは、学習者に便宜を図るためのいわゆるサービスであると同時に学生が払う学費で運営されているリージェント大学の学生募集戦略のひとつでもあるといえよう。

おわりに

以上、リージェント大学におけるふたつの「評価」を軸に、アメリカの典型的な非伝統的高等教育機関における単位と学位の認定について概観してきた。最後にこの大学の制度と、我が国の学位授与機構との相違点について考察してみたい。

まず、最大の違いは先にも述べたように学習者が学生であるか否かである。この違いによる学生サービスの差は前章で述べたとおりだが、しかし、たとえばリージェント大学のアドバイザー機能は学位取得プログラムに登録していない学習者に対しても供給できている。今後学位授与機構が、学位授与機構からの学位の取得を目指す学習者に対するアドバイザー機能を備えようとするなら、リージェント大学の先例から学ぶことは多いだろう。さらに、学習者が機関に属する「学生」であるならば、「卒業生」の概念も発生し、「同窓会」の結成も可能になる。リージェント大学同窓会による大学への有形無形の支援の力も看過できない。

また、アメリカでは学位にプロフェッショナルとアカデミックの違いが際だっているのに対して、日本ではその区別はほとんどないことから、リージェント大学に見られるような実務領域にかかわるクレジットにいわば「トランスファー有効期限」を設けているのも、我が国の学位授与機構には見られない現象である。

このように、学習者に対して便宜を図るという点でも、またクレジットの評価を厳格にして学位の質を保つという点でも、学位授与機構が、学外学位授与機関であるリージェント大学

の28年間の歴史から学びうることは少なくないだろう。

参考文献

Regents College, Regents College: Access, Excellence and Change, 1992

Regents College, Regents College examinations, 1996-1997, 1996

館 昭「アメリカの学外学位授与機関（リージェント大学）の仕組みと現況」『学位研究』第1号，1993年

館 昭「アメリカにおける学外学位課程の展開状況」『学位研究』第2号，1993年

ポーラ・E・ペイノビッチ（森利枝訳）「リージェント大学の理念と現状」『学位研究』第6号，1997年

橋本鉦市「アメリカにおける学外学位授与機関—チャーターオーク大学の制度と仕組み—」『学位研究』第9号，1998年

[ABSTRACT]

System of Assessment of Learning Outcomes in Regents College:
Evaluation of Learning and Credit

Rie Mori*

System of Assessment may be said to be the central portion of external degree-granting organizations. Assessment can make an organization an excellent non-traditional higher educational institute or just a diploma mill. This article summarizes the system of Assessment of learning and credit in Regents College, one of the leading institutes awarding external degrees.

Assessment of learning occurs in two ways in Regents College. One way is assessment of learning to provide credit and the other is assessment of credit to award a degree. This article deals mainly how the college gives the learners the chance and scheme to be assessed with their knowledge and ability besides certifying the quality of credit or degree. To certify the quality of credit, for example, the College gives criteria for credit transfer in the viewpoint of level and time, i.e., the College does not accept credits from non-accredited institutes, earned with low record, or earned too long ago. The rigidity of this scheme of degree-awarding, therefore, is what keeps the academic quality and social reputation high. On the other hand, Regents College also certifies its degree candidates' status as students by letting them "enroll" the degree program to make the learners be given some social wealth, such as scholarships as collegiate students.

There may be many implications to our National Institution for Academic Degrees from the College's experience as an external degree awarding organization for some thirty years.

*Research Fellow, National Institution for Academic Degrees

